

「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」について関係都県からいただいたご意見について

国土交通省関東地方整備局

「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」について、国土交通省関東地方整備局河川部長（平成24年10月22日付け国関整河計第60号）から関係都県土木担当部長あてに意見照会を行った。関係都県の意見は以下のとおりである。

【茨城県土木部長（平成24年10月26日付け河第414号）】

茨城県においては、利根川の逆流の影響で支川の小貝川が破堤するなど、過去に幾度も甚大な被害を受けており、また、利根川下流部が無堤であるなど、まだまだ整備が遅れていることから、県内の治水安全度を早く高めていただく必要がある。

このため、事業の実現性等を考慮し、今後20～30年間で目指すべき安全の水準を全国と比較して高い水準である年超過確率1/70～1/80と設定し、これに相当する八斗島地点の計画流量を17,000m³/sとすることは妥当であると考えます。

今後、河川整備計画を早急に策定し、河川の整備を鋭意進めていただきたい。

【栃木県県土整備部長（平成24年10月26日付け河第177号）】

本県では、人口や資産が非常に集中している利根川・江戸川流域の社会・経済的重要性を考慮すると、今後20～30年間で目指す治水安全度を年超過確率1/70～1/80とした場合の治水対策に係る目標流量17,000m³/s（八斗島地点）の設定については、異存ない。

今後は、河川整備計画の早期策定をお願いしたい。

【群馬県県土整備部長（平成24年10月26日付け河第300019-1号）】

群馬県としては、県土の安全安心の向上のため、利根川水系河川整備基本方針による基本高水22,000m³/sを目標として、利根川上中流域で早期により高い治水安全度を確保することを望むところであるが、具体的な施設整備の詳細については今後検討を進めるものとして、八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討結果で示された施設整備等を今後20～30年程度で実施する内容であるということをも前提とすれば、河川整備計画の目標流量を17,000m³/sとして検討することは予算や工期を考慮するとやむを得ないと考えます。

【埼玉県県土整備部長（平成24年10月26日付け河砂第323号）】

本来戦後最大のカスリーン台風なみの洪水規模を目標とするべきと考えますが、今後20年から30年で実現可能な整備水準が流量にして17,000m³/s（八斗島地点）であるとすれば、利根川・江戸川河川整備計画における「治水対策に係る目標流量」を17,000m³/sとすることはやむを得ないと考えます。

八ッ場ダムの完成も含め今回策定する河川整備計画を1日も早く実現し、さらにその先の整備をお願いしたい。

【千葉県県土整備部長（平成24年10月26日付け河整第260号）】

利根川・江戸川河川整備計画を策定するにあたり、治水対策に係る目標流量を17,000m³/sとし、今後、20～30年間で目指す安全の水準を1/70～1/80とすることについて、本県としては、異議ありません。

【東京都技監（建設局長兼務）（平成24年10月26日付け24建河計第126号）】

- ・今後20年から30年間に目指す安全の水準については、流域沿川の人口・資産の集積状況等を鑑みて、年超過確率1/70～1/80を目指すことは妥当
- ・目標流量17,000m³/sと設定することについて、特段の異存なし

(写)

国関整河計第60号
平成24年10月22日

別記 あて

国土交通省
関東地方整備局
河川部長

「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」
について（照会）

標記について、別添で示した考え方を踏まえ、下記のとおりとすることにつ
いて意見を求めます。

記

「利根川・江戸川河川整備計画」を策定するに当たり、「治水対策に係る目
標流量」を八斗島地点において $17,000\text{ m}^3/\text{s}$ と設定する。

別記



茨城県土木部長



栃木県県土整備部長



群馬県県土整備部長



埼玉県県土整備部長



千葉県県土整備部長



東京都建設局長

別添資料

- 平成24年5月25日記者発表『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準に対する意見募集の実施について－「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量に関する意見募集－』の別添資料

利根川・江戸川において今後20～30年間で 目指す安全の水準についての考え方

－「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量について－

【要旨】

- 我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を流れる利根川・江戸川の氾濫域には、人口・資産が高度に集積しています。
- 利根川・江戸川の重要性を考慮すると、今後20～30年間で目指す安全の水準は、全国の他の河川における水準と比較して相対的に高い水準（年超過確率^{*1}1/70～1/80）とすることが適切と考えています。

*1 年超過確率については、下記の具体的な考え方をご参照ください。

【具体的な考え方】

1. 河川整備計画と安全の水準

利根川・江戸川の今後20～30年間の河川整備の内容である「利根川・江戸川河川整備計画」を定めようとしており、その目指す安全の水準を設定することとしています。

- 河川整備計画は、河川法第16条の2の規定に基づき定める計画で、長期的な観点に立って定める河川整備の最終目標である河川整備基本方針^{*1}に沿って、段階的な中期的な整備の内容を

定めるものであり、一般的に、計画対象期間としておおよそ20～30年をひとつの目安として策定されます。

○ 現在、関東地方整備局は、「利根川・江戸川河川整備計画」の策定に向けた取り組みを進めているところです。

○ 利根川水系においては、平成22年度から八ッ場ダム建設事業の検証を行ってきました。八ッ場ダム建設事業の検証^{*2}においては、今後20～30年間で目指す安全の水準を表す「河川整備計画相当の目標流量」の設定（17,000 m³/s^{*3}）等を行い、河川法第16条の2に準じて学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長等の意見を聴き、八ッ場ダム建設事業に関する対応方針が決定されました。

このたび、「利根川・江戸川河川整備計画」の策定に当たって、あらためて、利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準について、関東地方整備局の考え方をお示しします。

○ ここで、安全の水準は、安全に流すことができる洪水の規模を年超過確率で示すことによって表現することとします。年超過確率とは洪水の規模を示す場合に用いる指標の一つであり、平均して何年に1度の割合でその値を超過する洪水が発生するかということを示しています。

なお、「年超過確率1/100の洪水」という場合、その規模を超える洪水が100年間に1回しか発生しないという意味ではなく、2年連続で発生する可能性もあり、当然のことながら本年発生する可能性もあります。年超過確率の考え方を30年間に少なくとも1回は発生する確率で例示すると、次のとおりになります。

30年間に少なくとも1回は年超過確率1/30以上の洪水が発生する確率	約64%
30年間に少なくとも1回は年超過確率1/40以上の洪水が発生する確率	約53%
30年間に少なくとも1回は年超過確率1/70以上の洪水が発生する確率	約35%
30年間に少なくとも1回は年超過確率1/80以上の洪水が発生する確率	約31%

○ 「利根川・江戸川河川整備計画」における具体的な施設計画等については、今後20～30年間で目指す安全の水準に対応する「治水対策に係る目標流量」を設定した上で、今後、この目標流量に基づいて検討していくこととしています。

*1 河川整備基本方針は、長期的な観点に立って定める河川整備の最終目標であり、一級河川では、重要度に応じて計画規模を年超過確率1/100から1/200の範囲で定めています。

*2 八ッ場ダム建設事業の検証に関する資料は下記のHPに掲載しています。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000022.html>

*3 八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討の過程においては、河川整備計画相当の目標流量に対する河川整備の、20～30年間における実現可能性を確認しています。

2. 現在の利根川・江戸川の状況と安全の水準

我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を流れる利根川・江戸川の氾濫域には、人口・資産が高度に集積しています。

- 利根川・江戸川は、我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を擁する関東平野を流れており、利根川・江戸川の洪水時の水位よりも標高が低い低平地に、人口・資産が高度に集積しています。
- 江戸時代には、それまで東京湾へ流れていた利根川を太平洋にも流れるように変更しました（東遷事業）。
- 利根川・江戸川では、明治時代以降も大規模な洪水が繰り返し発生しました。流域の社会・経済が発展を続ける中で、これらの洪水等を契機にして、これまでに数度にわたり治水の計画を見直してきました。
- これらの治水の計画に基づき、洪水を「流す」、「貯める」などの施設を整備してきました。また、洪水が「あふれる」ことに対応して水防活動等も実施してきました。このように、洪水による被害をできるだけ小さくするために、流域全体で役割分担をしていますが、現在の利根川（八斗島地点を含む一連の区間）の安全の水準は、年超過確率で示すと、概ね $1/30 \sim 1/40$ にとどまり、首都圏を抱える利根川水系の社会・経済的重要性を踏まえると、十分ではないと考えています。
- なお、利根川においては、河川整備の最終目標である河川整備基本方針の策定に当たり、基準地点八斗島の計画規模を年超過確率 $1/200$ とされています。

3. 利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準（案）

利根川・江戸川の重要性を考慮すると、今後20～30年間で目指す安全の水準は、全国の他の河川における水準と比較して相対的に高い水準（年超過確率 $1/70 \sim 1/80$ ）とすることが適切と考えています。

- 全国のいわゆる直轄管理区間の河川整備計画においては、戦後最大の洪水を安全に流下させることを目標として目標流量を設定していることが多く、その結果として、河川整備計画の目標

流量の規模は概ね年超過確率 1 / 20 から 1 / 70 の範囲となっています。

- 「利根川・江戸川河川整備計画」において目指す治水安全度は、首都圏を抱える利根川水系の社会・経済的重要性を考慮し、全国の他の直轄河川における水準（概ね年超過確率 1 / 20 から 1 / 70 の範囲）と比較した場合に、相対的に高い水準（少なくとも 1 / 70 ～ 1 / 80 程度以上の安全な水準）を確保することが適切であると考えています。（別紙 1 参照）
- この考え方にに基づき、河川整備の実現可能性等を考慮して検討を行い、「利根川・江戸川河川整備計画」において目指す治水安全度（八斗島地点）を、年超過確率 1 / 70 ～ 1 / 80 と設定することが妥当であると考えます。この年超過確率 1 / 70 ～ 1 / 80 に相当する流量（「治水対策に係る目標流量^{*4}（案）」）を算出すると、17,000 m³/s^{*5} になりました。

表 流域及び想定氾濫区域

	流域			想定氾濫区域		
	総面積 (km ²)	総人口 (人)	一般資産額 (百万円)	総面積 (km ²)	総人口 (人)	一般資産額 (百万円)
全国計	240,620	78,737,696	1,418,124,032	28,939	52,317,772	964,863,380
全国平均	2,208	722,364	13,010,312	265	479,980	8,851,958
利根川水系	16,840	12,794,244	213,561,468	4,167	8,442,091	138,172,784

出典：国土交通省河川局 統計調査結果「一級水系における流域等の面積、総人口、一般資産額等について」

*4 治水対策に係る目標流量は、洪水調節施設が存在しない状態で流出する場合の流量と仮定しています。

*5 利根川の基本高水の検証において求めた八斗島地点におけるピーク流量とその年超過確率の関係をを用いて求めています（出典：国土交通省 利根川の基本高水の検証について 平成 23 年 9 月、日本学会会議 回答 河川流出モデル・基本高水の検証に関する学術的な評価 平成 23 年 9 月 1 日）。

昭和 22 年 9 月洪水において、八斗島上流の 3 地点においてピーク流量付近の流量観測が行われており、この観測流量を流下時間の時間差を考慮して重ね合わせた八斗島地点における最大流量の推定値は 17,000m³/s です。なお、氾濫等により相当量の浸水が生じていたと推定される状態の流量です。

また、同洪水では、利根川本川の埼玉県加須市（旧大利根町新川通地先）において堤防が決壊し、氾濫水が東京都東部低地に達するなど、甚大な被害が生じました。（別紙 2 参照）

なお、この昭和 22 年 9 月洪水を基準として、目標とする流量を 17,000m³/s とした利根川改修改訂計画が、昭和 24 年に策定されています。

【補足】

- いわゆる直轄管理区間の河川整備計画においては、戦後最大の洪水を安全に流下させることを目標として目標流量を設定していることが多く、その結果として、河川整備計画の目標流量の規模は概ね年超過確率 1 / 20 から 1 / 70 の範囲となっています。利根川の場合には、戦後最大洪水は昭和 22 年 9 月のカスリーン台風となり、大きな被害が発生した近年の洪水に対する再度災害防止という観点からは同洪水規模を目標とすべきと考えられますが、同洪水の流量は約 21,100 m³/s^{*6} と推定され^{*7}、長期的な視野に立って定める河川整備の最終目標である河川整備基本方針規模（1 / 200）の整備水準を 20 ～ 30 年間で達成することを目指すこととなり、現実的には不可能^{*8} と考えられます。

*6 利根川の基本高水の検証について（平成 23 年 9 月 国土交通省）

*7 利根川水系河川整備基本方針における八斗島地点の基本高水のピーク流量は 22,000m³/s です。

*8 ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討の過程においては、河川整備計画相当の目標流量に対する河川整備の、20 ～ 30 年間における実現可能性を確認しています。

図 一級水系の想定氾濫区域内の人口及び資産

想定氾濫区域内人口



※河川現況調査(H17)

想定氾濫区域内資産

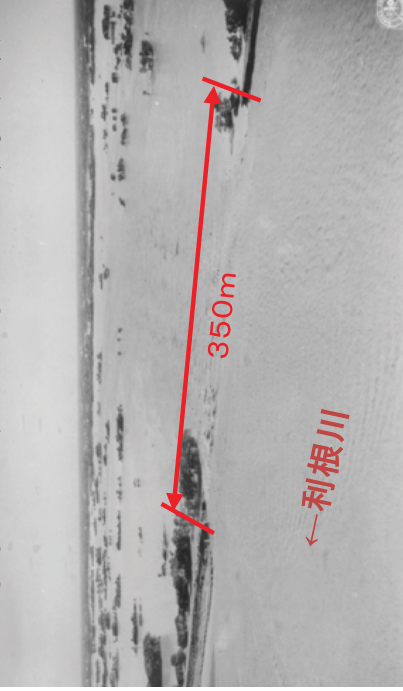


※河川現況調査(H17)

○戦後最大洪水(昭和22年カスリーン台風)での被災状況

別紙-2

埼玉県東村(加須市)利根川右岸堤防決壊

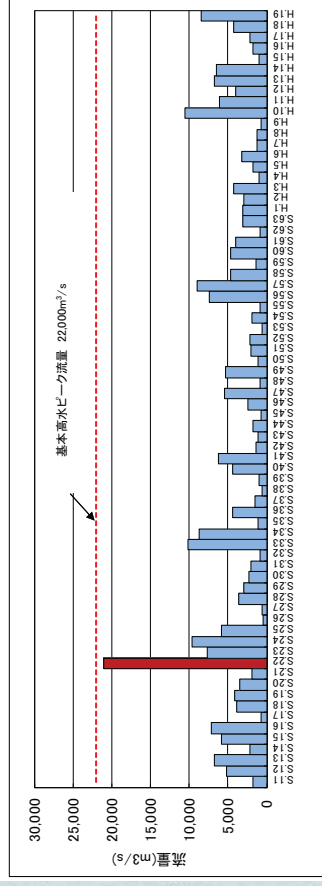


埼玉県栗橋町(現久喜市)の浸水状況



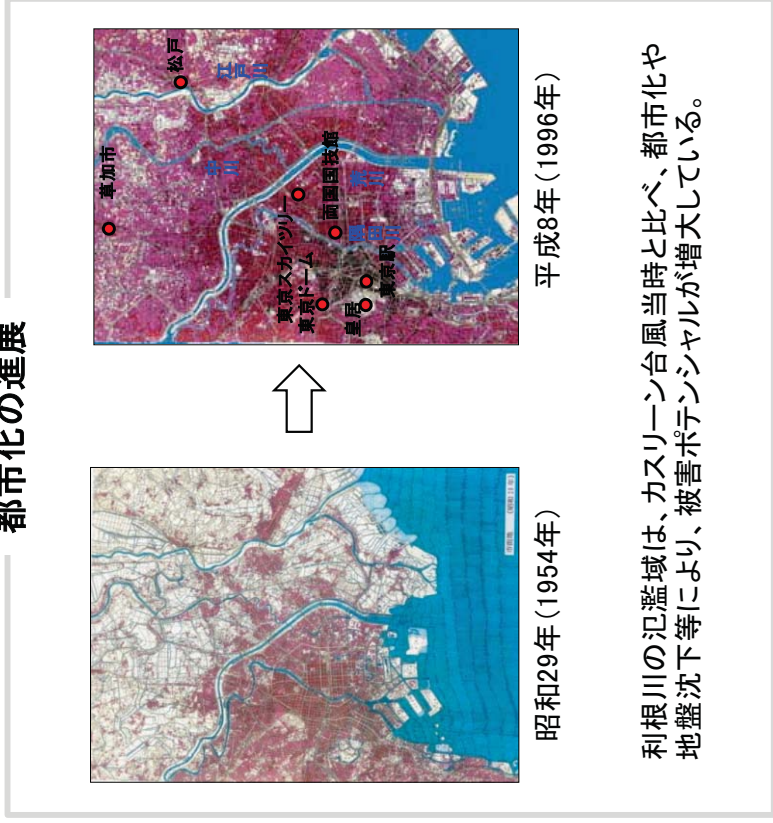
葛飾区の浸水状況

年最大流量(八斗島地点)



※社会資本整備審議会河川分科会(第44回)資料より作成

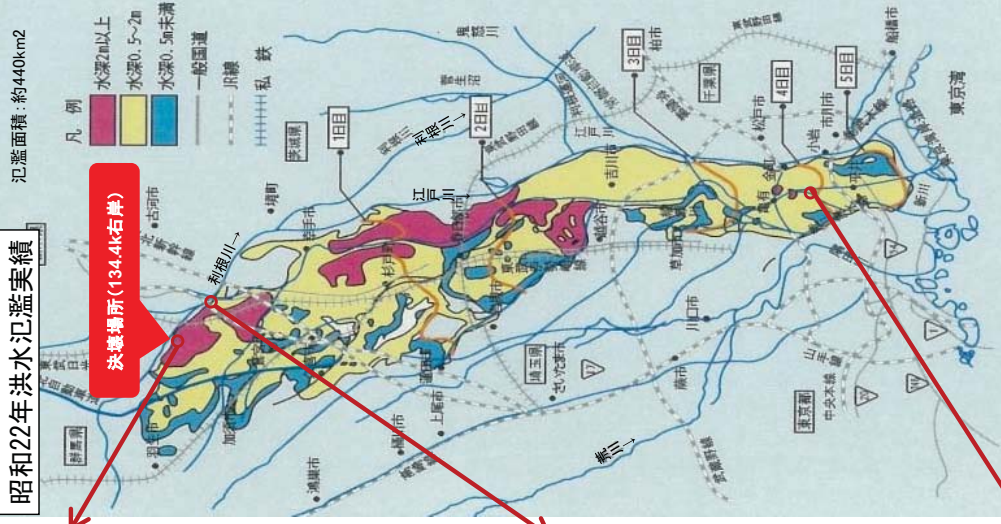
都市化の進展



昭和29年(1954年)

平成8年(1996年)

利根川の氾濫域は、カスリーン台風当時と比べ、都市化や地盤沈下等により、被害ポテンシャルが増大している。



※氾濫実績の範囲は、東遷事業が行われる前の、旧流路に沿った低い土地に広がっている。(参考資料参照)



河 第 414 号
平成24年10月26日

国土交通省

関東地方整備局 河川部長 殿

茨城県土木部



「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」
について（回答）

平成24年10月22日付け国関整河計第60号で照会のあった標記の件に
ついて、下記のとおり回答します。

記

茨城県においては、利根川の逆流の影響で支川の小貝川が破堤するなど、過去に
幾度も甚大な被害を受けており、また、利根川下流部が無堤であるなど、まだまだ
整備が遅れていることから、県内の治水安全度を早く高めていただく必要がある。

このため、事業の実現性等を考慮し、今後20～30年間で目指すべき安全の水
準を全国と比較して高い水準である年超過確率1/70～1/80と設定し、これ
に相当する八斗島地点の計画流量を17,000m³/sとすることは妥当であると
考える。

今後、河川整備計画を早急に策定し、河川の整備を鋭意進めていただきたい。

関東地方整備局

河計第 98 号

24.10.30



河 第 177 号
平成 24 年 10 月 26 日

国土交通省
関東地方整備局 河川部長 様

栃木県 県土整備部長



「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」
について（回答）

平成 24 年 10 月 22 日付け国関整河計第 60 号にて照会のありました件については、
下記のとおり回答します。

記

本県では、人口や資産が非常に集中している利根川・江戸川流域の社会・経済的重要性
を考慮すると、今後 20 ～ 30 年間で目指す治水安全度を年超過確率 1/70 ～ 1/80 とした
場合の治水対策に係る目標流量 17,000 m³/s(八斗島地点)の設定については、異存ない。
今後は、河川整備計画の早期策定をお願いしたい。

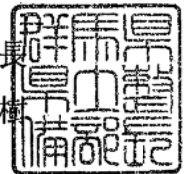
関東地方整備局
河計第 9A 号
24.10.29

河川課 企画治水担当
Tel.028-623-2444

河第300019-1号
平成24年10月26日

国土交通省 関東地方整備局
河川部長 様

群馬県 県土整備部
笹森 秀樹



「利根川・江戸川河川整備」における「治水対策に係る目標流量」について（回答）

平成24年10月22日付国関整河計第60号により意見照会があった標記の件について、下記のとおり回答します。

記

群馬県としては、県土の安全安心の向上のため、利根川水系河川整備基本方針による基本高水22,000 m^3/s を目標として、利根川上中流域で早期により高い治水安全度を確保することを望むところであるが、具体的な施設整備の詳細については今後検討を進めるものとして、八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討結果で示された施設整備等を今後20～30年程度で実施する内容であるということを前提とすれば、河川整備計画の目標流量を17,000 m^3/s として検討することは予算や工期を考慮するとやむを得ないとする。

関東地方整備局
河計第 95 号
24.10.29

河砂第323号
平成24年10月26日

国土交通省
関東地方整備局 河川部長 様

埼玉県県土整備部長



「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」
について（回答）

平成24年10月22日付け国関整河計第60号で照会のあった標記に対する意見に
ついて、下記のとおり回答します。

記

本来戦後最大のカスリーン台風なみの洪水規模を目標とするべきと考えるが、今後
20年から30年で実現可能な整備水準が流量にして17,000 m^3/s （八斗島地点）
であるとすれば、利根川・江戸川河川整備計画における「治水対策に係る目標流量」を
17,000 m^3/s とすることはやむを得ないと考える。

ハツ場ダムの完成も含め今回策定する河川整備計画を1日も早く実現し、さらにその
先の整備をお願いしたい。

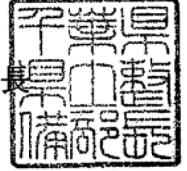
関東地方整備局
河計第 97 号
24.10.29



河 整 第 2 6 0 号
平成 2 4 年 1 0 月 2 6 日

国土交通省 関東地方整備局
河 川 部 長 様

千葉県県土整備部長



「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」について（回答）

平成 2 4 年 1 0 月 2 2 日 付 け 国 関 整 河 計 第 6 0 号 で 照 会 の あ っ た こ の こ と に つ い て は、下 記 の と お り 回 答 し ま す。

記

利根川・江戸川河川整備計画を策定するにあたり、治水対策に係る目標流量を $17,000 \text{ m}^3/\text{s}$ とし、今後、20～30年間で目指す安全の水準を $1/70 \sim 1/80$ とすることについて、本県としては、異議ありません。

関東地方整備局
河計第 96 号
24.10.29



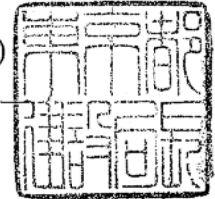
24 建河計第 126 号

平成 24 年 10 月 26 日

国土交通省 関東地方整備局
河川部長 泊 宏 様

東京都技監 (建設局長兼務)

村 尾 公



「利根川・江戸川河川整備計画」における「治水対策に係る目標流量」について

(回答)

平成 24 年 10 月 22 日付国関整河計第 60 号にて照会のあった標記の件について、下記
のとおり回答します。

記

- ・今後 20 年から 30 年間に目指す安全の水準については、流域沿川の人口・資産の集積
状況等を鑑みて、年超過確率 $1/70 \sim 1/80$ を目指すことは妥当
- ・目標流量 $17,000 \text{ m}^3/\text{s}$ と設定することについて、特段の異存なし

関東地方整備局

河計第 99 号

24.10.31